

# 調査研究課題「望ましい消費者の育成に資する教科横断的な指導計画と啓発資料の作成」

北海道教育大学附属函館中学校

- ・消費者に関する知識の伝達が中心になりがち
- ・教科全体を通して育成するという視点が不明確

## 課題

- ・多様化し続ける消費者問題に対する正しい理解

- ①「教科横断的な消費者教育が育むべき力の育成のための指導計画」の作成
- ②各教科・道徳での授業実践の蓄積

## 重点

- ③消費者教育に関する啓発資料の作成・配信

## 内容

- ア 「消費者教育が育むべき力」での「領域」と「目標」を分析し、「目標を構成する要素」を書き出す
  - イ 学習指導要領から「目標を構成する要素」の育成に資する内容を抽出・整理
  - ウ 各教科・道徳の授業実践の蓄積、授業展開例の考案
  - エ 指導計画の改善・再構成
- ※学習指導案がリンクされた指導計画の作成を目指す

外部有識者および本学教授による研究への指導・助言

外部有識者および本学教授による教員研修(講演・意見交換)

- ア 公正取引委員会による「独占禁止法教室」の開催・撮影
- イ 編集による映像化
- ウ 校内の専用Wi-Fiを利用してのみ接続できる校内サーバーに映像をアップロード・配信
- エ 映像のダウンロード、タブレットPC端末への保存
- オ 啓発資料としての映像の配信開始を連絡

反転授業に用いる教材の開発  
(講義映像・学習指導案・ワークシート等)

## 成果

- 1 教員の意識の変容(消費者教育で育むべき力が汎用的な能力であり学校の教育活動全体で育成すべき能力であるという意識の醸成)
- 2 生徒の意識の変容
- 3 「出前授業」を啓発資料として他学年生徒および家庭へ広げる方策の確立

## 課題

- 1 「指導計画」の作成・改善、授業実践の積み重ね
- 2 「育むべき力」を具体を提示し生徒が自覚して学べる系統的・計画的な指導・研究
- 3 継続的な調査の実施による変容把握に応じた改善
- 4 「目標を構成する要素」に示された資質や能力が育まれているかを見とる評価方法の開発
- 5 情報モラル教育の計画的かつ実態に応じた柔軟な継続